四王司山城を知る

北西方面から長府方面と周防灘を望む

～信仰の地と山城～

【城郭データ】
遺跡名：四王司山城
時代：南北朝時代～
城主：厚東武村、厚東義武ほか
主な遺構：階段状の曲輪（寺院跡？）
登山条件：長府松小田と田倉から登山口
所在地：大字松小田、大字田倉

【四王司山の概要と特徴】

四王司山は長府の北西にある山で、平安時代に置かれた四天王を祀る四王寺 から名が付いたとされる。その後南北朝期に、一帯を治めていた厚東氏が大内氏との抗争に備え山城を整備したと言 われているが、その構造は寺院跡を再利用したものと考えられる。

その後、厚東氏は大内氏との争いに敗れ没落。また、四王司山は北方の守りで 武神でもある毘沙門天を祀ったことから、人々の信仰を集める山となった。

【A. 四王司神社】

由緒沿革には、仲哀天皇により長府北方の守護を祀り、平安時代の清和天皇による国土安泰の勅願から、江戸時代には長府藩の庇護も受け四王司毘沙門祠と称し現在に至るとされる。

毘沙門堂への初寅参りの地四王司山に、且つて人々は猛々しい虎の姿を重ねたかもしれない。

四王司山城のあるところ～山岳宗教と山城～

四王司山は長府と勝山の北方にある比較的大きな山塊で、古代に四王寺が置かれたことに始まり毘沙門天、修験の山として信仰を集めていた。また、地域的要衝として古代長門城の推定地の一つでもある。

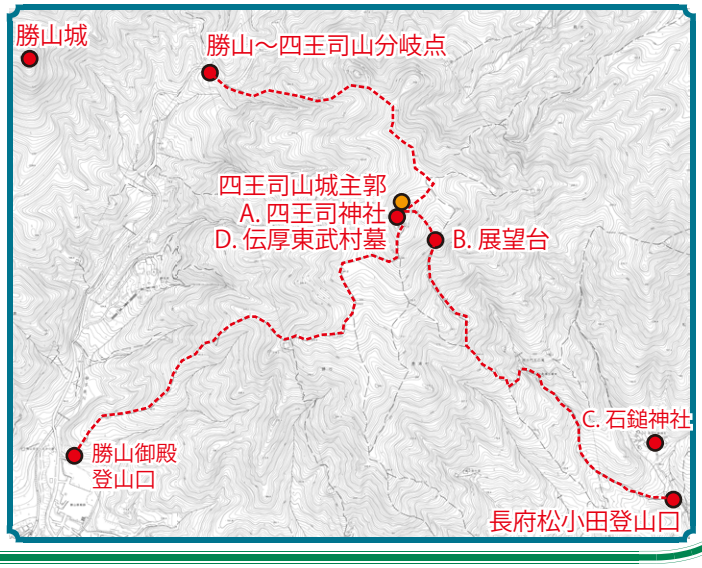
【アクセス】
長府方面からは JR 長府駅から線路を超え松小田団地方面へ。団地奥の石鎚神社から登山口。勝山方面から勝山御殿跡 (勝山地区公園) の登山口もある。

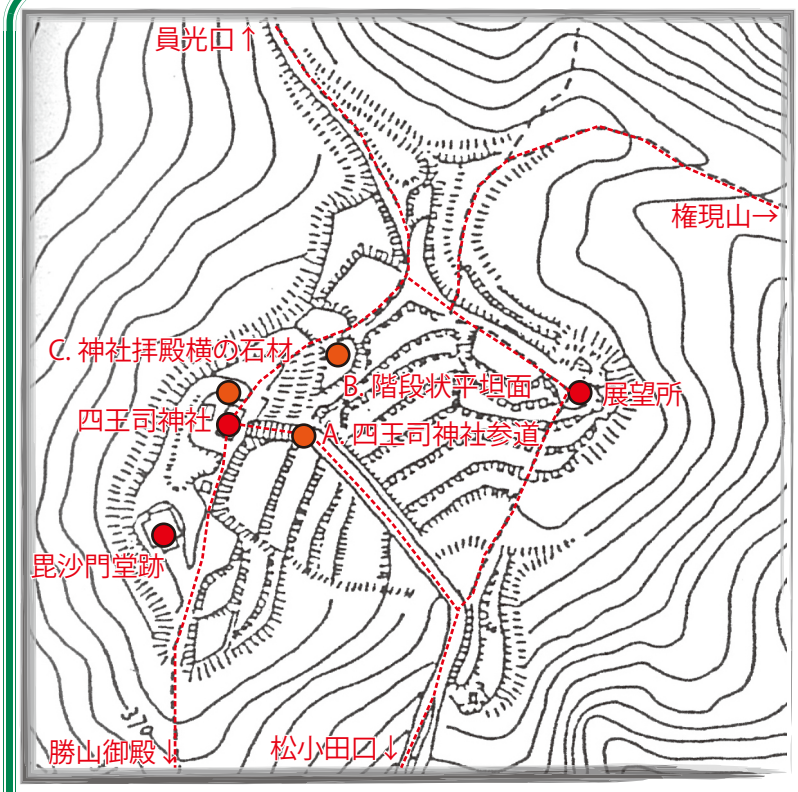
A. 四王司神社の脇にある毘沙門堂跡。火災にあい現在はその痕跡のみ。当初はこちらに毘沙門天が安置されていた

B. 四王司山展望台からの眺望。山陰のルートを眼下に収める位置から、古代山城「長門城」推定地の一つとされる。

C. 松小田登山口の傍、石鎚神社。神社の奥には修行の場である滝などもある。

D. 南北朝期に長門国守護に就いた厚東武村の墓と伝えられる。厚東氏はその後、四王司山城で大内氏と決戦し敗れる。





向井一雄「長門の中世城館」(『中世城郭研究第 11 号』(1997)) より

四王司山城を攻める！

【四王司山城の縄張り】

四王司山は長府と勝山の北方に広がる旧下関市域の中では比較的広い山塊である。古代山陽道や瀬戸内海へ通じる関門海峡東口まで見通せる地理的特性から、古代山城「長門城」の有力な推定地の一つとされる。

地理的特性は、平安時代に伯耆、出雲、岩見、隠岐に造られた古代寺院の四王寺が当地に置かれたことからも明白である。その後、南北朝期に長門守護職を務めた厚東氏が整備したのが四王司山城とされる。

現地には壇状の平坦面が多数あり、あたかも城郭曲輪と見受けられるが、一面が広く堀もなく防御性を意図した造りとなっていない。むしろ四王司神社を軸に取り囲む構造は、山岳寺院の僧房などに似ている。そのため、平坦面は古代四王寺の痕跡で、山城として再利用された可能性を残すに留める。

A：四王司神社参道。道両脇に壇床上の平坦面が連続する。城郭曲輪ではなく、山岳寺院の痕跡と思われる。

B：階段状に連続する平坦面。一面が比較的広い。また防御性の意図も見えない。

B：平坦面の背後法面には一部石材が散布している。石垣ではなく区画するための石積みの可能性が高い。

C: 四王司神社拝殿の周辺は一段高くなっており、石材も散布する。中心的施設としての役割が見える。

もっと四王司山城を知りたい…

松小田口からの登山道にある掲示板より。
四王司山愛好会さんが会員募集中です。

毎年初めの寅の日には、初寅詣りで多くの方々が山頂目指して登山されます。

【参考となる資料】

- 『日本城郭体系第 14 巻 鳥取・島根・山口』(1980) 新人物往来社
- 「長門の中世城館」(1997) 向井一雄『中世城郭研究第 11 号』
- 「ふるさと下関ふるさと勝山」(2010) きむらかんいちろう

【その他のご参考】

- 四王司愛好会さま
  主に長府方面から、四王司山の環境保全や登山道の整備などされておられます。
  松小田口・四王司口の掲示板には会員募集もされてます。

＊掲示板より転載（連絡先）：よねくら商店 083-245-0758